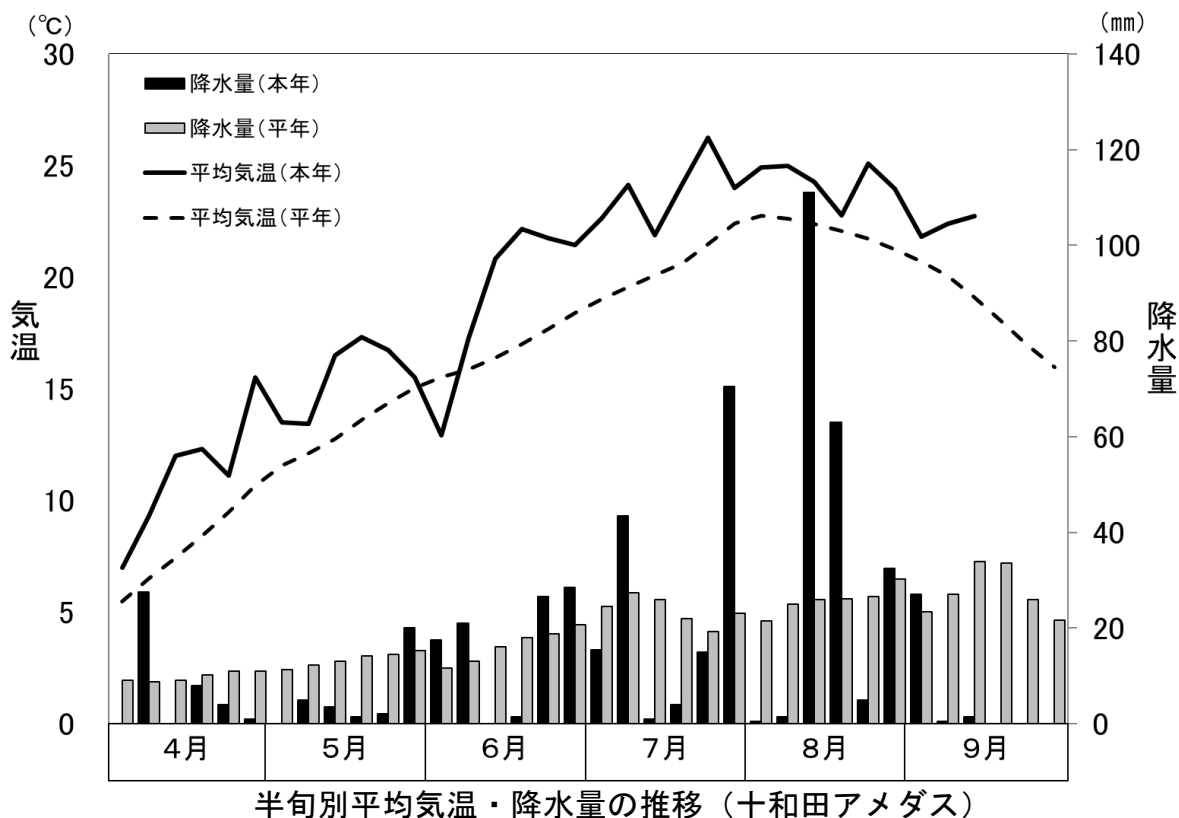


上北農業生産情報 第6号

令和6年9月20日
上北地域県民局地域農林水産部長

○ 水稻の適期刈取と農作業の安全に努めましょう！
○ 台風や大雨に備え、明きよ等の排水対策を徹底しましょう！

気 象



【8月】

- ・平均気温は、期間を通して平年を上回った。
- ・日照時間は、上旬は平年を上回り、中・下旬は平年を下回った。
- ・降水量は、上・下旬は平年を下回り、中旬は平年を上回った。

【8月の気象（十和田アメダス）】

項目	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間 h		降水量 mm	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上旬	25.0	22.7	29.4	27.3	21.6	19.0	57.7	51.1	2.0	46.5
中旬	23.5	22.2	26.8	26.7	21.2	18.6	17.9	46.3	174.0	52.1
下旬	24.5	21.5	28.5	26.1	21.3	17.5	31.8	51.7	37.5	56.8

注) 気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計(下旬は11日間の平均・合計)

【9月上旬】

- ・平均気温は、平年を上回った。
- ・日照時間は平年を上回り、降水量は平年を下回った。

【9月上旬の気象（十和田アメダス）】

項目	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間 h		降水量 mm	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上旬	22.1	20.4	28.5	25.2	15.7	16.3	91.6	44.1	27.5	50.5

注) 気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計

東北地方 1か月予報(9月14日から10月13日までの天候見通し)

令和6年9月12日 仙台管区气象台 発表

○天気は数日の周期で変わるでしょう。特に、期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込みです。

水 稲

《生育状況》

- 1 生育観測ほ「まっしぐら」の成熟期生育調査では、稈長及び穂長は平年より長く、 m^2 当たり穂数は平年より多かった。
- 2 1穂籾数は平年並み、 m^2 当たり籾数（暫定）は平年より多く、9月1日現在の登熟歩合は76.0%と平年を大きく上回った。

【生育観測ほの生育状況（品種：まっしぐら）】

年次	出穂期 (月/日)	9月1日現在			登熟歩合 (%)	1穂籾数	m^2 籾数 ($\times 100$ 粒)
		稈長 (cm)	穂長 (cm)	m^2 穂数 (本/ m^2)			
本年	7/26	80.8	18.9	391	76.0	85.5	333
平年	8/4	75.3	18.1	358	59.5	85.5	304

注1) 県生育観測ほ4地点の平均値。

平年値は各地点の平年値(前4か年～前18か年の平均値)の平均値

注2) 登熟歩合は比重1.06の塩水に沈んだ籾の割合、籾数は暫定値

《今後1か月間の主な作業》

- 1 刈取り作業
 - ア 「まっしぐら」の刈取適期始めの目安（出穂後積算気温 $960^{\circ}C$ 到達予想日）は、出穂が早かったほ場（7月27日出穂期）で十和田アメダスでは9月4日、平均的なほ場（7月28日出穂期）では9月6日であった。

出穂の早晩	出穂期				
	7月27日	7月28日	7月30日	8月1日	8月3日
適期の目安					
適期始($960^{\circ}C$ 到達日)	9月4日	9月6日	9月9日	9月11日	9月13日
適期終($1,200^{\circ}C$ 到達日)	9月15日	9月17日	9月20日	9月23日	9月26日

注1) 十和田アメダス：9月11日まで本年値、以後平年値で積算

イ 個々のほ場の刈取時期は、籾や枝梗の黄化程度、籾水分量、青未熟粒の混入割合等から総合的に判断する。夏季高温年であった今年は、胴割粒が発生しやすくなるうえ、刈遅れは茶米等の多発が懸念されることから、出来るだけ早く刈り終えるようにする。

2 その他留意事項

- ア 倒伏により品質の低下が予想される場合は、倒伏部分を別刈りする。
- イ 登熟ムラによる高水分粳や未熟な粳の混入が多い場合は、粳水分18%程度で一旦乾燥を中断し、最低5～6時間貯留してから仕上げ乾燥を行う二段乾燥など、水分ムラに配慮した乾燥に努める。
- ウ 「良食味・高品質米」生産のため、乾燥は適正水分15.0%を目標とする。
- エ コンバイン等の機械の点検時には必ずエンジンを停止する。ほ場の出入りや傾斜地の走行は慎重に行うなど、農作業事故が起きないように十分注意する。

大豆

《生育状況》

- 1 生育観測ほの9月10日現在の生育は、草丈は平年を上回り、着莢数は平年並である。
- 2 生育が旺盛なほ場で、倒伏の発生が見られる。

【生育観測ほの生育状況(品種：おおすず)】

調査地	年次	9月10日現在		備考
		草丈 (cm)	着莢数(莢/本)	
十和田市切田	本年	123.1	40.7	
	平年	112.6	40.5	
	前年	128.7	40.6	

注1) 平年値は令和3年～5年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

- 1 台風や大雨に備え、滞水しないよう明きょ等の補修を行う。
- 2 青立ち株や大型雑草は汚粒発生の原因となるので、収穫前に必ず抜き取る。
- 3 収穫適期は、コンバイン収穫では子実水分が20%以下、茎水分が50%以下に低下した時期である。収穫適期に達したら速やかに作業できるよう、早めにコンバインや乾燥・調製施設の準備を進める。
- 4 培土高のムラが大きいほ場や、倒伏が見られるほ場では、土による汚損粒の発生を防ぐため、刈取りの高さに注意する。

小麦

《今後1か月間の主な作業》

- 1 耕起・砕土は出芽、苗立ちの確保に関わる作業のため、丁寧に行う。
- 2 湿害を防止するため、明きょの設置など排水対策を徹底する。
- 3 種子伝染性病害の防除のため、種子消毒を徹底する。
- 4 は種作業は遅くとも9月末までに終え、越冬前の生育量を確保する。
- 5 は種量は10a当たり条播で6～8kg、散播で12～13kgとする。

ながいも

《生育状況》

- 1 生育観測ほの9月10日現在の生育は、いも長、いも径、いも重ともに平年を上回っている。
- 2 一般ほ場においても、気温が高く降雨も適度にあつたことから、おおむね順調に生育している。

- 3 葉渋病、炭そ病の発生が広く見られており、ナガイモコガの食害も見られている。

【生育観測ほの生育状況(種いも：1年子芽付き)】

調査地	年次	植付日 (月/日)	萌芽揃期 (月/日)	つるのネット 頂到達日 (月/日)	9月10日現在		
					いも長 (cm)	いも径 (mm)	いも重 (g)
東北町滝沢平	本年	5/11	5/29	6/29	86.1	56.9	1,113
	平年	5/ 8	6/ 5	7/ 9	64.6	53.4	812
	前年	5/ 5	6/ 1	-	78.8	47.4	814

注) 平年値は平成26年～令和5年の平均値、本年の調査日は9月10日

《今後1か月間の主な作業》

- 1 台風等に備えるため、ネットや支柱の補強や明きよ等の排水対策を行う。また、大雨等で穴落ちが発生したほ場は、速やかに埋め戻す。
- 2 葉渋病、炭そ病、ナガイモコガを主体とした防除を行う。
- 3 秋期もウィルスに感染するので、採種ほ場はアブラムシ類の防除を徹底し、発病株は早めに抜き取る。

にんにく

《今後1か月間の主な作業》

- 1 ほ場の準備と施肥
 - ア 黒腐菌核病、イモグサレセンチュウ等の土壌病害虫が発生していない排水性の良いほ場を選ぶ。なお、排水性が悪いほ場に植え付けざるを得ない場合は、明きよや深耕など事前の排水対策を徹底する。
 - イ 土壌改良資材や堆肥は、土壌診断結果に基づいて施用量を決める。
 - ウ 基肥は、窒素成分で10 a 当たり25kgを目安とする。
- 2 種子の準備
 - ア 種子用の球は、病害虫の被害や腐敗がなく、形が整った一球5～6片のものから選ぶ。
 - イ りん片重は10～15gを基準とし、大きさ別に3段階程度に選別し、できるだけ大きさを揃えて植え付ける。
 - ウ ネギアザミウマ、チューリップサビダニの被害を防ぐため、種球の分割・種子りん片の選別後は速やかに消毒・風乾して植え付ける。
 - エ イモグサレセンチュウの被害拡大防止のため、種苗として正規の管理・チェックを経ていない種子は絶対に使用しない。
- 3 植え付け
 - ア 植付適期は昨今の高温気象を鑑み、越冬直前の葉数が3～4枚となる「10月上旬～下旬」を目安とする。
 - イ 植え付ける深さは7～8cm程度とする。

露地ねぎ

《生育状況》

- 1 アザミウマ類の被害痕や斑点性の病害がわずかに見られるものの、収量は平年並みである。
- 2 軟腐病の多発生ほ場が一部に見られる。

《今後1か月の主な作業》

- 1 降雨に備えるため、明きょ等の排水対策を講じる。
- 2 斑点性病害、べと病、ネギアザミウマ等を主体とした防除を行う。
- 3 軟白長30cm以上を確保し、適期収穫に努める。

秋だいこん(10月収穫)

《生育状況》

- 1 生育観測ほの9月10日現在の生育は、発芽後の気温は高く推移したものの、適度な降水により、地上部の生育は概ね平年並であるが、根重は平年を下回っている。
- 2 7月下旬～8月上旬には種されたものは、生育はおおむね良好である。病害虫は、キスジノミハムシ、一部で白さび病の発生が見られている。

【生育観測ほの生育状況(品種：S-139)】

調査地	年次	は種期 (月/日)	9月10日現在		
			葉長 (cm)	葉数 (枚)	根重 (g)
東北町乙部	本年	8/8	27.8	12.5	42.7
	平年	8/6	28.9	13.6	58.3
	前年	8/8	33.7	14.4	85.8

注) 平年値は平成26年～令和5年の平均値

注) 令和4年に担当農家を変更したため、平年は参考値

《今後1か月の主な作業》

- 1 白さび病(わかか症)、アブラムシ類、コナガ等を主体とした防除を行う。
- 2 収穫は、L規格(1～1.2kg)を中心に、肥大状況を確認し適期に行う。

ごぼう

《生育状況》

- 1 生育観測ほの9月10日現在の生育は、草丈が106.3cm(平年比110%)で平年をかなり上回り、葉数が3.1枚(平年比91%)で平年をかなり下回っている。
古い葉にうどんこ病が見られるほか、その他の病害虫被害も散見されるが、生育に影響のない程度である。
- 2 一般ほ場において、生育は概ね順調のため、根部の肥大状況を確認し、適期収穫に努める。早出し栽培(べた掛け)では8月19日頃から収穫が始まっている。

【生育観測ほの生育状況(品種：柳川理想)】

調査地	年次	は種期 (月/日)	9月10日現在	
			草丈 (cm)	葉数 (枚)
三沢市猫又	本年	5/16	106.3	3.1
	平年	5/1	96.6	3.4
	前年	4/28	96.0	4.9

注) 平年値は平成26年～令和5年の平均値

《今後1か月の主な作業》

- 1 黒条病やヒョウタンゾウムシ等の根部害虫の防除を行う。
- 2 試し掘りで根部の肥大状況を確認し、適期に収穫する。

りんご

《生育状況》

- 1 生育観測ほの「ふじ」の9月11日現在における果実肥大（横径）は8.2cmと平年を上回っている。
- 2 黒石市（りんご研究所）における果実肥大（横径）は8.1cmで、平年比103%、前年比99%となっている。

【生育観測ほの生育状況（品種：ふじ）】

調査地	9月11日現在の果実肥大(横径)				
	本年(cm)	平年(cm)	平年比(%)	前年(cm)	前年比(%)
十和田市米田	8.2	7.9	104	8.1	101

注) 平年値は平成28年～令和5年の8か年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

- 1 中生種の収穫
 - ア 自園の果実の状況を確認し、早もぎせず、味をのせた上で適期に収穫する。
 - イ トキは熟期が揃いにくいので、3回程度に分けてすぐりもぎを行う。早生ふじは、地色を見て2回くらいに分けて収穫する。黒石（りんご研究所）におけるトキの収穫始めは9月30日頃の見込み。
- 2 風害防止対策
 - 台風に備え、防風網の点検・補修や、幼木、わい性台樹の支柱の補強など風害防止対策をしっかりと行う。

牧草

《生育状況》

- 1 生育観測ほは、平年より5日早い9月11日に3番草を収穫し、10a当たり乾物収量は154kgで平年比83%だった。

【生育観測ほの生育状況（オーチャードグラス主体）】

調査地	年次	刈取日(月/日)	草丈(cm)	乾物収量(kg/10a)
十和田市米田	本年	9/11	65.7	154
	平年	9/16	74.6	185
	前年	9/12	74.8	168

注) 平年値は平成26年～令和5年の10か年平均値

《今後1か月間の主な作業》

- 1 3番草の刈取
 - オーチャードグラス3番草の刈取りは、10月上旬には終わらせる。
- 2 雑草防除
 - ギシギシ等の雑草の発生が多いほ場では、除草剤を散布する。
- 3 土壌改良資材等の散布
 - 3番草の刈取り後に、土壌改良資材や堆肥の散布を行う。

飼料用とうもろこし

《作柄状況》

刈取は平年より12日早い9/10、生育観測ほの生収量は平年比153%の7,080kg/10a、乾物収量は平年比127%の1,918kg/10a、TDN収量は平年比122%の1,311kg/10aであった。

【生育観測ほの作柄状況（品種：スノーデント110日）】

調査地	年次	刈取月日 (月/日)	熟 期	生収量 (kg/10a)	乾物収量 (kg/10a)	TDN収量 (kg/10a)
東北町北栄	本年	9/10	糊熟後期	7,080	1,918	1,311
	平年	9/22	—	4,640	1,514	1,077
	前年	9/12	黄熟初期	4,854	1,537	1,092

注) 平年値は、平成30年～令和5年の6か年平均値

《今後1か月間の主な作業》

- 1 ほ場ごとの刈取適期を確認しながら、計画的に刈取りを進める。
- 2 台風等による倒伏・折損が発生した場合は、速やかに刈り取る。